

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」 2013. 9. 16. 夜

築地初島大神宮 だんじりとだんじりがぶつかり合う「山あわせ」



「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて 各町内の地車(地車と書いてだんじりと読む)が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも 南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。

だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合せて押し合う。

そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に寄せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中で、地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。



2. 阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通して築地 初嶋大神宮へ



阪神尼崎駅の南東側 庄下川の東側に広がる城内地区 2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景 新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは**16時45分** 築地だんじり祭の「山あわせ」は**18時過ぎ**と聞く。たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通して築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。祭の前にちょっと歩いてみたい。

尼崎

昔と今をオーバーラップ

尼崎城
尼崎城は、二重・三重の櫓で全体を城郭的に構成しており、本丸には櫓形虎口が設けられ防衛の面がうかがえます（表裏射の絵を参照）。この設計は、江戸城や二重城・名古屋城に倣っており、平地に築かれた典型的な近世城郭の構造で、江戸幕府の城としての特徴が表れています。また、水も巧みに利用した跡は、水に浮いているように見えることから「浮城・海城」と呼ばれたほか、「海城」という別称もありました。
→当時を模して造られた城壁（現尼崎城址公園）

本丸（ほんまる）
本丸跡（ほんまるごてん）
本丸は、約 120m 四方の形で、城の中心を占めています。本丸跡は礎石（礎石）の位置であり、同時に城の遺構や重要な儀式を行っていた場所でもありました。

天守（てんしゆ）
本丸の東北側に東西約 18m、南北約 14m の天守台があり、その上に高さ約 11m におよぶ、四重の天守がそびえていました。（高松城参照）

三重櫓（さんじゅうらぐら）
本丸には東北隅に天守を築く三層に三重の櫓があり、それぞれが「南櫓」（南櫓）、「北櫓」（北櫓）、「西櫓」（西櫓）と名づけられました。

三万の丸（さんまんのまる）
南・北・西の三つの丸を指し、それぞれが「南三万の丸」（南三万の丸）、「北三万の丸」（北三万の丸）、「西三万の丸」（西三万の丸）と名づけられました。

二之丸
二之丸跡を指し、天守を守護する重要な役割を担っていました。

東三之丸
東三之丸跡を指し、天守を守護する重要な役割を担っていました。

西三之丸
西三之丸跡を指し、天守を守護する重要な役割を担っていました。

東三之丸
東三之丸跡を指し、天守を守護する重要な役割を担っていました。

西三之丸
西三之丸跡を指し、天守を守護する重要な役割を担っていました。

下江州時代当時の海・川・堀
二重宇・森崎＝江戸時代（エリア・地名・建物等）

1 現在の川
二重宇・森崎＝現在（エリア・地名・建物等）

城下町と寺町

城下中在家町（じょうなかながざいけちやう）
中在家町は、江戸時代初期の尼崎城築城にともない、豊町とともに城の西方に新しい町として作られました。尼崎城築城から創業が盛んであり、江戸時代に入って織物用染料の生産の需要が増え、イワシを求めて関東地方にまで出漁。そのため海に面した中在家町には生産用船をはじめ漁業関係の商人や漁師が多く居住し、城下では最も人口の多い町でした。
また、河川には魚市場があり、産の名称と呼ばれる産物の水産物を通り、魚が近海や西国各地から入荷するとともに、城下や京都・大阪方面に売りさばっていました。

浦の初島 / 初嶋大神宮（はつしまだいじんぐう）
江戸時代以前、静かな海原に浮かぶ小島、点在する幾多の神祇の島々、自然に湧き出る湧き水などから湧き出る神と認められました。この豊饒の地を多くの漁人達は「豊饒の初島」と呼び、伊弉諾の神を祀ったとされています。初嶋大神宮には宝暦 5 年（1755）に、「古歌も書きたるに、今またあらはに浦の初島と題してと、宮殿の公衆も人々に敬を宿す」とあり、現在も神の霊が宿っているとされています。



尼崎の景色が大きく変化する中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫 2013.9.16.

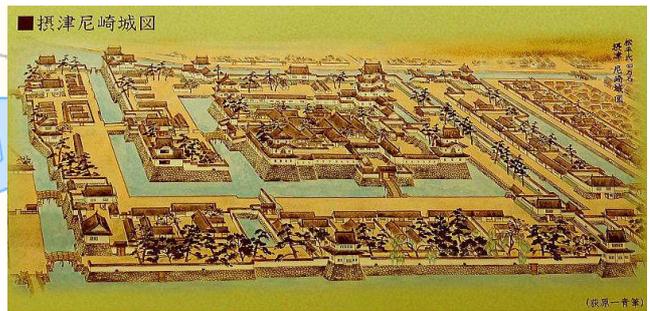


庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡 2013.9.16.



城跡公園が所蔵する北側の阪神尼崎駅舎（今はこんな形らしいと噂されているのだと子供の頃は、ここは孤立尼崎城跡だった。 2013.8.16.

阪神尼崎駅南側 庄下川に面した城内地区 かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという



江戸の初め 西の守りとして 3重の堀に囲まれ、4層の天守閣を持つ水城があった



尼崎城を中心とした城下 町民の町8町 そして 城西の町（中在家・宮町）そして 城南の築地町には300年続く庶民の祭「だんじり祭」が今も受け継がれ、続いている。



図書館の南側 開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ 懐かしい古い建物が並んでいる 2013.9.16. 左手の南側は本丸があった辺りである



城内高校

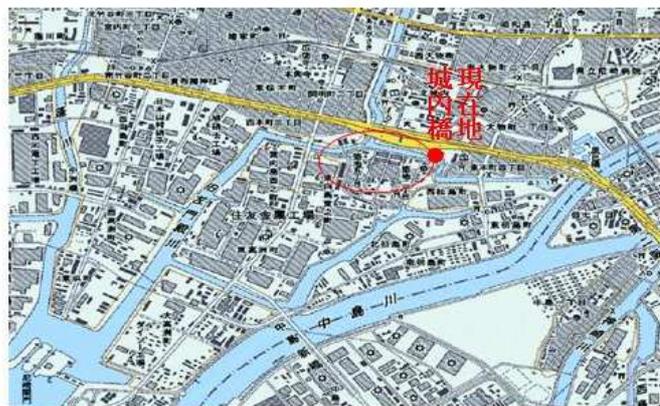


旧中央図書館



開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる 2013.9.16.

ここはかつて 国鉄尼崎駅から南へ 金楽寺を通過して 築地にあった尼崎港駅まで通っていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている



阪神高速の高架をくぐると 尼崎城下 築地町への入口 城内橋 2013.9.16



水路を渡ると築地 かつての中国街道・往還筋 築地の本町通には祭礼のちょうちんが掲げられていました



橋を渡って 街中へ入らず 運河沿いを東へ 運河の向こうに 大官町・小嶋 二つの地車が見えている

また、水路の東には大官町・小嶋の地車が「山あわせ」を待っていました



運河がカギ状に曲がる角 向こう側に「尼崎浄化センター」がある広い公園の端に本町一丁目の地車がいる。ここがほぼ、築地の東端。初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る

すぐ西側に細長いひろはがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園。「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。街のあちこちで 法被姿の地車の引き手の祭にであう。また、17時 随分時間がある

築地の東側の端周辺 だんじりの山あわせはこの公園の広場で行われる



公園の西端にも地車が見える 丸嶋の地車でした

「山あわせ」には、せまいなま」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入らず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。

だんじりの「山あわせ」を待つ広場



初嶋大神宮 浦の松島とよばれ、南に大小の島々が浮かぶ海が正面に広がっていた

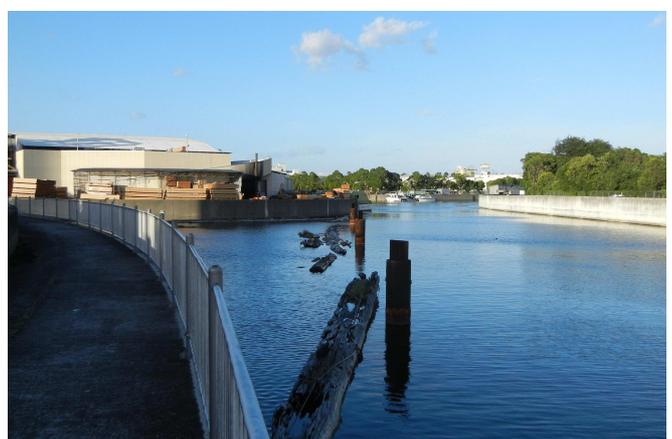
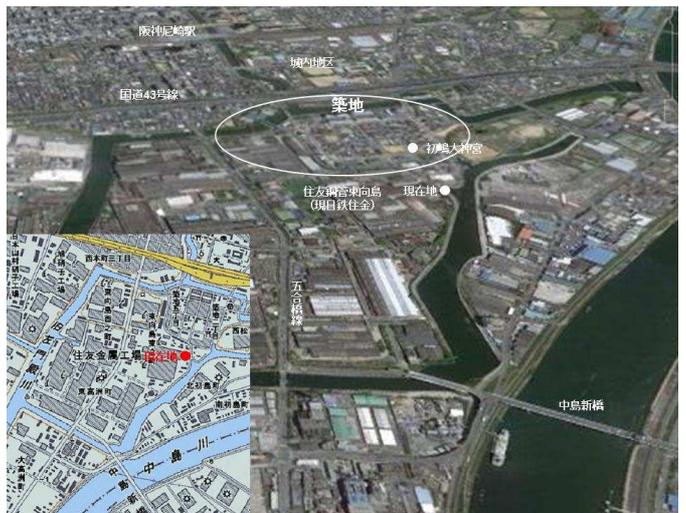
初嶋大神宮にお参りを済ませましたが、まだ地車の山あわせには1時間以上あるので、築地の街から南側に広がる住金の工場群を取り囲む向島の水路に沿って、久しぶりに歩きました。

3. 築地の東端から水路に沿って 東向島をぐるりとめぐる

築地の街の南は住友鋼管（現新日鉄住金）の工場群が立ち並ぶ工場街。かつてよく通った工場ですが、高潮をされるため、ぐるりと防潮壁でかこまれ、この東向島のウォーターフロントはほとんど知らない。

築地の街の東端から南へ水路沿いに歩いて、ぐるりと1週して、築地の街の西の入口「戎橋」に戻ってきました。

ちょうど夕暮れ 水路は夕日に輝いて美しく光っていました。



築地の南東端の水路船溜り周辺で 左 北の船溜り 右 南 新中島大橋から尼崎港



東向島の工場群を取り囲む水路防潮堤と水路沿いに建ち並ぶ工場建屋



久しぶりに見る工場内運搬車線 2013.9.16.

かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひっきりなし
工場には「カーカーン」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など
気ある音が鳴り響いていましたが…… 活



久しぶりに塀の外側から見る工場内 向島の運河沿いより一本北の通り南側から



北側 向島と築地・中在家を別ける五合橋線 築地橋から眺める夕日



庄下川に架かる43号線陸橋



すぐ南側 東西の水路に架かる築地の西入口 戒橋

4. 築地本通を山あわせに向かうだんじり いよいよ「築地だんじり祭」も最高潮



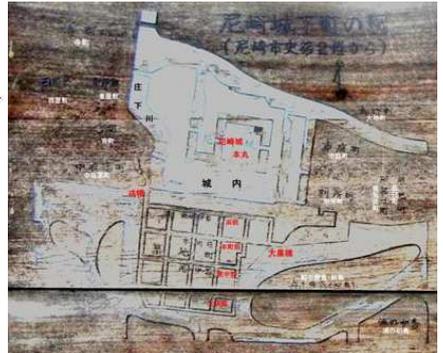
向島から北へ1町、築地の西の入口、沿道から本町通り、辻屋敷へ来た。辻屋敷の囃子の音が聞こえながら「山あわせ」の地車が次々と集ってゆく

尼崎城下 築地町の西の入口 戎橋 2013.9.16
橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



そろそろ街中にもぎやかになってきました。本通を歩いて、築地へ入り祭りを誘ってくれた友達に出会って「ええところへ来た、大神宮でお払いしてから、一杯やってそれから「山あわせ」だよ」とご馳走になった



いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ



社殿に登って 御祓いを受けるのは 何十年ぶりか 巫女さんが剣を持って舞い、頭にかざしてもらった鈴が「チリチリ」と鳴って 邪気を祓ってくれる子供の頃といつしよだなぁ・・・と

いよいよ築地の街に地車が繰り出し、大神宮も人で一杯に。御祓いを受けて出陣する地車を見に戻る



街には「山あわせ」に向かう地車まのたんに囃子の音が響き渡り、にぎわってきた築地。本町通りで2013.9.16.





次々と各町内の地車が築地本通に集まってきて、行ったりきたり。

町中にだんじり囃子が響き渡り、順次 東の「山あわせ」の広場へ向かってゆく。

いよいよ 築地だんじり祭のクライマックス「山あわせ」が始まる

4. 築地だんじり祭のクライマックス「だんじりの山あわせ」



だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合せて押し合う。

そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

規制されたルールの中での戦い（演技）とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。

子供の頃には祭というのだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていきましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

築地の友人宅でご馳走になって、午後7時を過ぎて、いよいよ山あわせ場へ



一杯よばれて、19時を過ぎて「山あわせ」も進んでいるだろうと「山あわせ場」へ向かう
山あわせ場は人波でびっしり
だんじり囃子が鳴り響き、向き合う地車の対戦が行われていました
心浮き浮きで見やすい場所を探す



広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。軽快なだんじり囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く 「見たかったのは これや」と。 童心に返って楽しみました





9時を回って 興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了



「山あわせ」が終わって みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ 築地の街中へ繰り出していった 祭りのフィナーレを楽しむ



築地本通に繰り出した地車 町中が一緒になって 祭りのフィナーレを楽しむ





築地初島大神宮 だんじり祭 2013年9月16日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地だんじり祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり囃子のリズムが耳についています

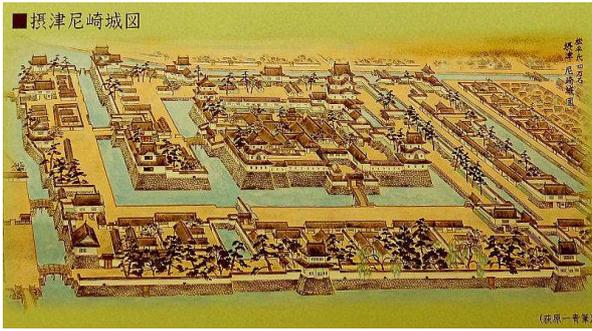


【参考 和鉄の道 Country walk】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
50数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf>
2. 工都尼崎を支える「尼崎港 閘門（尼崎）ロック」walk
<http://www.infokkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf>

参考 尼崎の歴史 旧尼崎城 城下町とだんじり祭り

今もだんじり祭が残る城南の築地 と 城西(中在家・宮町・屋敷町)地域



江戸時代の尼崎藩



尼崎市南部の旧尼崎城下町 8町

尼崎の歴史 1. 旧尼崎城下町

尼崎は大阪湾の奥 淀川や猪名川・神崎川の河口に位置し、「川尻」と呼ばれ、古代から漁業の盛んなところであると共に、海路瀬戸内へ向かう重要地点。海岸沿いに数多くの島・砂洲が点在する風待ちの湊であり、その海岸には西宮で京へ向かう西国街道と分岐した脇街道 中国街道が大阪へと通じ、尼崎地域(尼崎・大物・塚口・神崎など)は港・街道・淀川から数々の物資が集まる集散地として、中世には堺と並ぶ自由都市として栄えた。

戦国時代を経て、江戸時代の初めには 尼崎の海岸に 大阪西の守りとして「3重の堀を持ち、本丸には4重の天守と3重の櫓を有し、直接海へ出られる尼崎城とその城下町が築かれ、南浜の南端には、中国街道を通す為に木橋で東西に直行させるなど、港のある城下町として繁栄する。



尼崎の城下町は、武家屋敷の区画とは別に、町人たちが住む町屋の区画があり、城の東側の大物・辰巳・風呂辻・市庭・別所の5町は、中世以来の港町である大物・尼崎の区域。そして城の西側 宮町・中在家の2町は城の用地となった地区からそれまで砂州であった新開の地に移して作られた町である。八つ目の新しい町「築地」は、それまで城の南端を通っていた中国街道を迂回させるため、城の南側の葎島〔よしじま〕を造成して寛文4年（1664）につくられた。

水城がある城下町であり、港・街道・淀川から数々の物資が集まる集散地として栄えた「尼崎」。中世以来の港町であった大物町・東町だけでなく、城の城下として新しく作られた中在家などの城西地域や築地にも港の施設がありました。寛永12年（1635）の城下絵図によれば、大物町と東町（辰巳・風呂辻・市庭・別所町）の町場には、「舟乗場」の文字や港の施設である「石カンキ（雁木〔がんぎ〕）」が描かれていて、辰巳町の長遠寺浜と大物橋のたもとの大物浜に大坂への舟乗り場があり、大物浜に面する町並みは旅籠屋が軒を並べていた。また、辰巳町には大坂への街道が通る佃島との間を往復する渡し場もあり、この渡し場が尼崎藩領の東の境だったという。

「別所浜」（別所町南側の浜）には漁業や商売の神様の戎社が祀られていて、廻船や漁船などの荷の積み下ろし、取り引きでにぎわい、別の城下絵図には、中在家町東端（庄下川の西岸）にも雁木が描かれ、また、中在家町の浜には魚市場に多数の漁船が着岸している様子が描かれている。

城下で最も人口の多い町中在家町は、南側には大阪湾にでる水路に面し、街中を走る中国街道・水路沿いには魚市場・生魚問屋をはじめ漁業関係の商人や漁師の町屋が立ち並び東西に細長く伸びる湊町。江戸時代 綿作用肥料として干鰯の需要が増えるとイワシを求めて関東地方にまで出漁していたこともあるなど栄え、南側の水路を通り、魚を近海や西国各地から入荷するとともに、城下や京都・大坂方面に売りさばいたという。

また、新しく尼崎城の南側 水路を隔てて 砂洲を埋め立て作られた城下町「築地」は 当初ほかの町から移住してきた人たちが住む漁師町であったが、水路の北の浜沿いには材木問屋が立ち並び、寺町の寺々を建てた大工や商家の町屋並ぶようになり、中在家と共に中国街道が通る城下町として栄えた。

そして、中在家や宮町など城西地区の地域の西北端には貴布禰神社、築地には初島大神宮が鎮座し、これらの町の発展と共に勇壮なだんじり祭りが代々受け継がれ、今に続いている。

「図説尼崎の歴史」等より抜粋整理

尼崎の歴史 2. 近代から現在までの尼崎の発展

明治に入ると農業や漁業も引き続き盛んでしたが、綿や菜種といった近世以来の商品作物や城下町の繁栄を担った中在家の魚市場などは、明治の半ば頃から徐々に衰退。しかし、明治後半から始まった海岸部の広大な埋め立て地には数多くの工場が誘致されるのを皮切りに、尼崎の臨海部は大正・昭和を通じ、重化学工業地帯として発展し、城下町も徐々に活気を取り戻し、特に旧中国街道の道筋にあたる本町通商店街（現在の国道43号線沿い）は、明治後半頃から昭和戦前期にかけて、阪神間でも有数の活況を呈するなど、尼崎は工業都市化が進み、人口も急速に増え、旧城下町は尼崎の中心市街地として大いに発展する。しかし、第二次世界大戦が起こると空襲と疎開で南部の旧城下町を中心とした尼崎の市街地は消失を免れた築地や寺町などを含め、かつての賑わいを失ってゆく。

戦後復興期にはいると尼崎の南部地域には重工業を中心とした大工場群が立ち並ぶ「鉄のまち」としていち早く復活を果たす。かつて中国街道が通り、旧城下の中心だった本町通には 南部の大工場群を結ぶ東西交通の要として広い国道43号線が建設されると共に、工場街と居住地が南北に分断され、街の中心も北に移ってゆく。

戦後尼崎の市街地もまず商店街の再建から始まり、杭瀬・出屋敷などの商店街が活気を取り戻し、戦時疎開と空襲によりかつての面影を失った本町通商店街の多くの店が移転、開設した中央商店街も、これに続き、現在の阪神尼崎駅から出屋敷駅へと続く中心商店街が形成されてきました。

そして、築地や中在家などの旧城下町は中心市街地から、その地域に根ざした街へと移ってゆく。一方、工業生産も、昭和25年の朝鮮戦争にともなう特需景気によって息を吹き返し、やがて高度



経済成長期にかけて、鉄鋼を中心とする工業都市尼崎が復活を遂げていきました。
この時期の尼崎にとっての最大の課題は、工業用水の汲み上げによる地盤沈下が原因となって、毎年のように繰り返される高潮被害を防ぐための防潮堤の建設でした。
特に昭和 25 年のジェーン台風は、戦前の室戸台風以上に深刻な被害を尼崎市域にもたらしました。
このため、尼崎の海岸部全域を覆う大防潮堤の建設が計画され、昭和 30 年度中に完成。
尼崎港は防潮堤の外に新たに作られた大型船岸壁とスエズ運河式の閘門から出入りする旧来の内港の二つに分かれた。

工業都市としての繁栄から脱皮し、21 世紀への新しい街づくりへ

高度経済成長期には、工業生産の拡大に加えて、北部を中心とした住宅地開発も一層進み、市域の農地は急速に失われ人口の増加も著しく、昭和 45 年には 55 万 4 千人とピークを迎えるが、同時に、地盤沈下に加えて大気汚染や河川水質汚濁、騒音等の公害問題が一層深刻となるなど、急速な都市化の弊害がさまざまな形であらわれた。
工業用水道の設置（昭和 33 年給水開始）や公害防止協定の締結（昭和 44 年第 1 次協定）など、抜本的な公害対策がはかられ、さらに昭和 48 年の第 1 次オイルショック以降、日本経済の構造変化が進むなか、戦前以来の尼崎の工業も大きな転換をせまられ、工場の転出や閉鎖、人口の減少など、都市としての活力の停滞を余儀なくされてゆく。
こうしたなか、1980 年代から 90 年代にかけて、都市環境の整備・保全や市民福祉の充実、産業構造の転換、文化の振興など、市民の生活や意識の変化、時代の要請に応じた施策が取り組まれてきた。
また、平成 7 年には阪神・淡路大震災によって大きな被害を受け、その復興もまた大きな課題となった。
このように、現在 尼崎市は引き続きさまざまな都市課題に直面しているが、これらの課題の解決と都市の活性化をめざして、21 世紀における新たなまちづくりが進められている。

そんな中で、尼崎のだんじり祭は「尼っ子の血が騒ぐ」と尼崎の人たちの「ふるさと」として今も街づくりの一翼を担っている。

尼崎南部の旧尼崎の城下町地域は第二次世界大戦の空襲と疎開による街の空洞化と戦後の南部重工業地帯の大きな発展によって、尼崎の中心市街地の役割を終えましたが、多くの人々が住むそれぞれの地域の中核市街地として生き続けている。そして、地域の人たちによって継承され地域の支えとなってきたのが地域伝統の祭り「だんじり祭」である。

中在家町・宮町など城西地域 「貴布禰神社のだんじり祭」

南の築地地区 築地「初嶋大神宮のだんじり祭」。

私のふるさとは旧城下町ではなく、もう少し北の地域なのですが、子供の頃 私の町にも「八幡神社のだんじり」があり、また、貴船神社や初島大神宮のだんじり祭にはよく見物に連れて行ってもらいました。
そして、耳には あの尼崎独特のだんじり囃子の鐘の音と激しくぶつかり合うだんじりの記憶が残っていて、私もまただんじり囃子をきくと血が騒ぎます。



3. 尼崎の「地車・だんじり」

「だんじり祭」という街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、このほか河内・和泉や神戸・尼崎などにもあり、それぞれ、神社の大祭にあわせて 各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き回され、街を練る。そして地域によって、それぞれ地域に根ざした引き回しが行われる。

尼崎では、地車と地車が前の部分を上げてぶつかり合う尼崎独特の「山あわせ」が行われる。

かつては、街中で繰り広げられた「山あわせ」別名「だんじりのけんか」と町ではいい、かつては激しい荒くれの祭で、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止された。現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。

2台の地車が向かい合い、前の部分を上げながらぶつかりあい、上手く肩背棒といわれる棒（地車の引き棒）を先方の地車に乗せて、相手の地車を制してしまうと勝負ありという演技である。

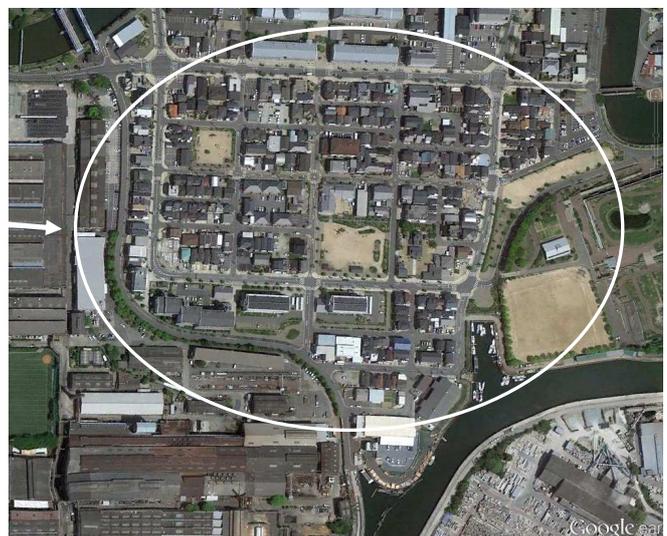
演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中で 地車と地車がぶつかり合う戦いで、迫力満点である。



尼崎 築地だんじり祭「山あわせ」2013. 9. 16. 夜

子供の頃には 祭りというこの「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、足が遠のいていましたが、一昨年夏 貴布禰神社の夏祭「だんじり祭の宮入巡行」を見て、今度はぜひ「山あわせ」を見たいと。そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番 ぜひ見においで」と声をかけてもらった。昨年はよう出かけませんでした、この9月16日 「初嶋大神宮大祭のだんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にある街で運河の南の向島地区はよく通った工場街。「山あわせ」が始まる前に 時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



かつての尼崎城下 築地の町の位置



江戸時代初期に築かれたかつての尼崎城下 築地

尼崎の漁師たちや魚問屋が、関東にまで進出していたという話もあり、
東京の「築地」は この「尼崎の築地」から名づけられたという人もいる



築地初島大神宮 だんじり祭 2013年9月16日夜

西の守りの要 城から直接海へ出られた水城 3重の堀と4層の天守閣を持つ尼崎城



現在の地図に重ねた尼崎城と城下 築地の街



明治 42 年尼崎町明細地図

現在のほぼ尼崎港・海岸線ができ、大工場が建ち始めている。
戦後 街の大半が地盤沈下で ゼロメートル地帯となり、ほぼこの地図の範囲が 尼崎閘門と防潮堤で囲まれ、このさらに南が埋め立てられてきた海岸町大型船岸壁が作られた



【 写真アルバム 】

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地だんじり祭」

築地初島大神宮 **だんじりとだんじりがぶつかり合う「山あわせ」**

2013.9.16.夜

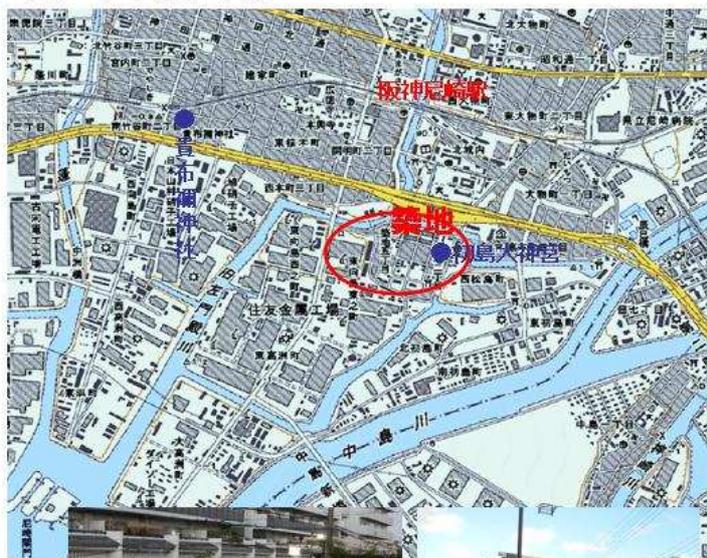
by Mutsu Nakanishi



一昨年の夏 尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

去年はよう出かけませんでした、この9月16日の夕方 わくわくしながら、築地初島大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残る街。この築地の南側 運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。久しぶりに「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



田尻崎城下の町「築地」に渡る「築地だんじり祭」

築地初島大神宮 **だんじりとだんじりがぶつかり合う「山あわせ」**
2013.9.16夜



「だんじり祭」という街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも、南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

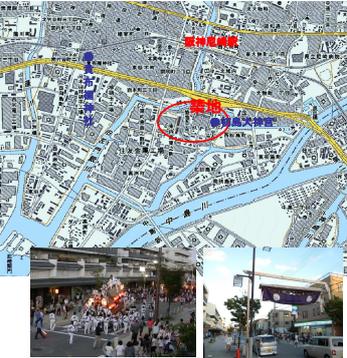


かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。
だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾げ、肩背棒どうしを山形に組み合せて押し合う。
そしてうまく、肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまおうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中で地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたち興奮して見る迫力満点の祭である。子供頃には祭というだんじり囃子にきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていきましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

一昨年の夏、尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たい。そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があればぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年よう出かけませんでした、この9月16日の夕方、わくわくしながら、築地初島大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。



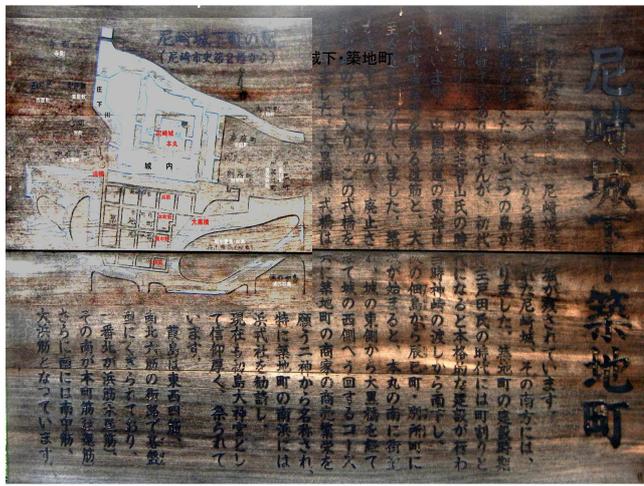
また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残る街。この築地の南側、運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。久しぶりに「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



尼崎城下 築地町 案内 戎橋にある案内板より

尼崎城下 築地町の西の入口 戎橋 2013.9.16

橋の北側たもとには初島大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



築地への西の入口 戎橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残っています。元和3年(1617)から築城された尼崎城、その南方には当時幕(あし)の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の山本氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を結ぶ道筋と、大阪の佃島から原田町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜成社を勧請し、現在も初島大神宮として信仰祭られています。

西島は東西四筋、南北六筋の街路で基盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(住道筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



1. 阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通って築地へ 2013.9.16.



阪神尼崎駅の南東側 住下川の東側に広がる城内地区 2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景、新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、今では尼崎の新しい顔のひとつになっています。

阪神尼崎駅に降り立ったのは16時45分、築地だんじり祭の「山あわせ」は18時過ぎと聞く。たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる住下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通過して築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい街づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変えていると聞く。築地の街やその南の向島の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。祭の前にちょっと歩いてみたい。



尼崎の景色が大きく変化の中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫 2013.9.16.



阪神尼崎駅南側 庄下川に面した城内地区 かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという
尼崎城を中心とした城下 町長の町(中在家・宮町)そして 城西の築地町には
300年続く庶民の祭「だんじり祭」が今も受け継がれ、続いている。



庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡 2013.9.16.



城跡公園から振り返る北側の阪神尼崎駅 今はこんなに美しいとこになっているのだと
子供の頃は ここは県立尼崎病院だった 2013.9.16.



図書館の南側 開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ 懐かしい古い建物が並んでいる 2013.9.16.
左手の南側は本丸があった辺りである



城内高校

旧中央図書館



開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる 2013.9.16.

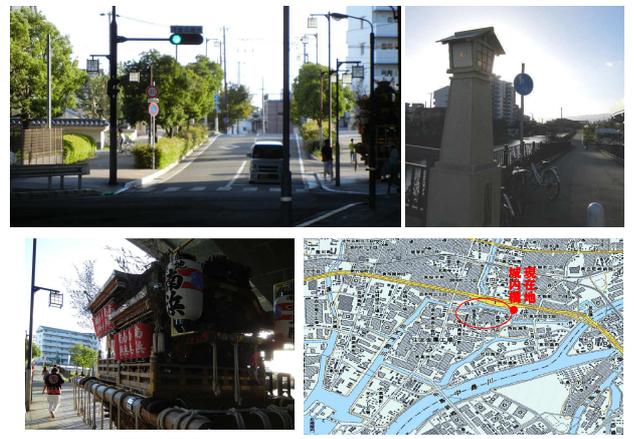
ここはかつて 国鉄尼崎駅から南へ 金楽寺を過ぎて 築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、確か高校生 の時代まで線路が残っていた
交通体系が大きく変化した今、南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている



国道43号線の高架橋 この高架の向こうには庄下川河口から尼崎港を巡る運河が張りめぐらされていて、
高架橋をくぐり、城内橋をわたると築地。高架橋の向こうに だんじり の姿が見える 2013.9.16.



国道43号線の高架橋下 築地の街への入り口
高架橋南の運河にかけられた城内橋を渡ると築地である 2013.9.16.



阪神高速の高架をくぐると 尼崎城下 築地町への入口 城内橋 2013.9.16



築地の北側を東西に流れる水路に架かる城内橋から西側を眺める 2013.9.16.



築地の震災復興まちづくり

平成7年1月8日撮影

平成七年一月一七日、阪神・淡路大震災に伴う地盤の液状化により多大な被害を被った地区の住民は「まちづくりは住民の手で」を合い言葉に、震災復興まちづくりに取り組みました。
築地地区のまちづくりの目標は「明るく住み良い環境を築き、災害に強い歴史文化的魅力のあるまちづくり」です。復興後も震災の記憶を忘れず、地区住民が「一緒にまちづくり」に取り組み、いっしょに生きていきます。
この写真は震災前の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。



現在の築地地区



橋を渡って 街中へ入らず 運河沿いを東へ
運河の向こうに「大官町・小嶋」二つの地車が見えている





ひとつ通りを南に行くとはん町通り かつての中国街道・往還筋
 通りには提灯が飾り付けられていて、西へ少し行けば初嶋大神宮
 南に地車が見えるので 其処までいってからお宮さんへ



運河がカギ状に曲がる角、向こう側には「尼崎浄化センター」がある広い公園の端
 に本町一丁目の地車がある。ここがほぼ、築地の東端。
 初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る



すぐ西側に細長いひろばがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園
 「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。
 街のあちこちで 法被姿の地車の引き手の姿にであう まだ、17時 随分時間がある



「山あわせには、せまいなあ」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入れず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。



公園の西端にも地車が見える 丸嶋の地車でした



この公園沿いの道をぐるりと回りこむと初嶋大神宮の正面に
 この通りが、築地の大浜筋 かつては海に面し、向かいには大小の島
 が浮かぶ景勝地「浦の初島」と呼ばれていたという。
 また、鳥居の両側の常夜燈は文化年間 生魚を京都で売りさばいたり、
 御所に納めていた仲買商仲間が寄進したものという

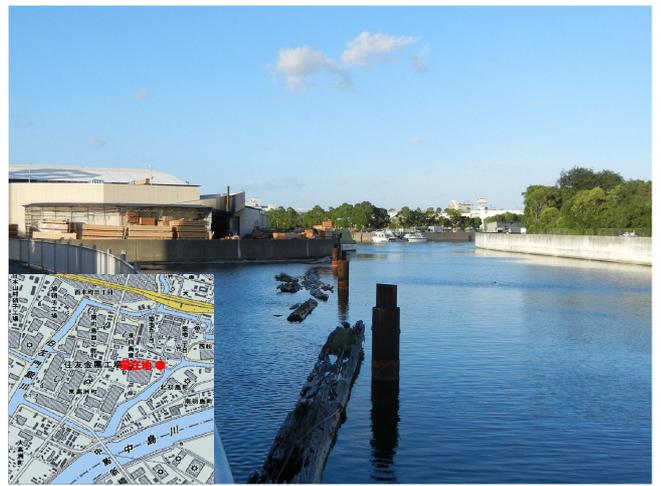


祭にしては夜店もないなあ と意外でしたが、神社の西の通りから、
 本町筋にびっしり夜店が出ていました。



東向島工場群を巡る運河Walk
 2013.9.16.夕 17:10

初嶋大神宮のすぐ南は向島 高潮防備の防潮堤を張り巡らせた住友鋼管
 夕暮れ 向島の周囲を取り囲む運河の線を久しぶりにがらぶ歩きました



東向島運河沿いから中島新橋 その奥 阪神湾岸線 尼崎港に掛かる大橋 2013.9.16.



東向島運河沿いから北側の遠望 工場建屋の向こうが築地 2013.9.16.



久しぶりに見る工場内運搬車用線路 2013.9.16.

かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひっきりなし
工場には「カーカー」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など
気ある音が鳴り響いていましたが...

活



向島の真ん中を南北に尼崎港へ結ぶ五合橋線 大洲橋の北側に出る 17:20 2013.9.16.



五合橋を北へ 住友鋼管の工場群の中をぬけて 築地へ向かう 2013.9.16.



30分ほどの東向島の運河をおさきました
本当に新しい街づくりで ウォーターフロントは美しかったです
築地橋の夕日がも格別でした
いったん 国道43号線まで出て、庄下川の川岸から南へ
築地の西の入口に掛かる茨橋から築地に入りました 17:43



向島までなりと1層して、築地の西の入口、茨橋から本町通り
へ往還筋へ戻ると、古いお祭り車を横断しながら
「山あわせ」に向かう地車が次々と橋へ向かってゆく

尼崎城下 築地町の西の入口 茨橋 2013.9.16
橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました

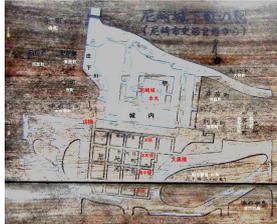


初嶋大神宮横ある案内板より
「尼崎城下・築地町」

この茨橋の前には尼崎城の礎が残っています。元和3年(1617)から築城された尼崎城、その南方には当時葎(あし)の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていったので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地の北に入り、この茨橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・茨橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南派には浜成社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葎島は東西四筋、南北六筋の街路で基盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



築地本通を山あわせに向かう だんじり
いよいよ「築地 だんじり祭」の「本祭」が始まり、築地の街も最高潮



いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ



そろそろ街中にもぎやかになってきました
本通を歩いていて、築地だんじり祭りを誘ってくれた友達に会って、
「ええところへ来た、大神宮でお払い受けてから、一杯やって
それから「山あわせ」で」と ご馳走になった



社殿に登って 御祓いを受けるのは 何十年ぶりか 巫女さんが剣を持って舞い、
頭にかざしてもらった輪が「チリチリ」と鳴って 邪気を祓ってくれる
子供の頃といっしょだなあ……と



街には「山あわせ」に向かう地車まのだんじり囃子の音が響き渡り、にぎわってきた
祭地 本町通で2013.9.16.



陽も落ちて 夕闇が迫る
街に だんじり囃子が響き渡り
各町内の地車が 露地本通に
集まってきて、行ったりきたり。
本通りは人垣ができ、お祭り
ムードで溢れかえる

ひとしきり本通りを練った
だんじりは「山あわせ」場へ

いよいよ だんじり祭の
クライマックス「山あわせ」





だんじり囃子を聞きながら、友人宅で一杯よばれて
 19時を過ぎて「山あわせ」も進んでいるだろうと「山あわせ場」へ向かう
 山あわせ場は人波でびっしり
 だんじり囃子が鳴り響き、向き合う地車の対戦が行われていました
 心浮き浮きで見やすい場所を探す



2013年築地 だんじり祭「山あわせ」

だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、
 肩背棒どうしを山形に組み合せて押し合う。
 そしてうまく肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、
 相手の地車を倒してしまうと勝負がつく。

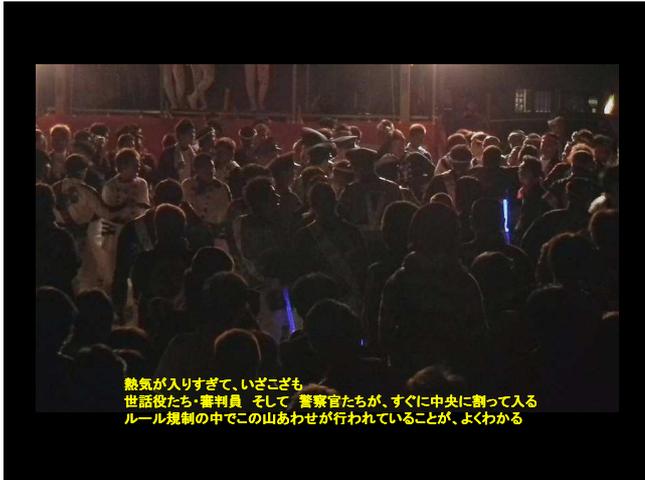


広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。
 軽快なだんじり囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く「見
 たかったのはこれや」と、賞心に返って楽しめました







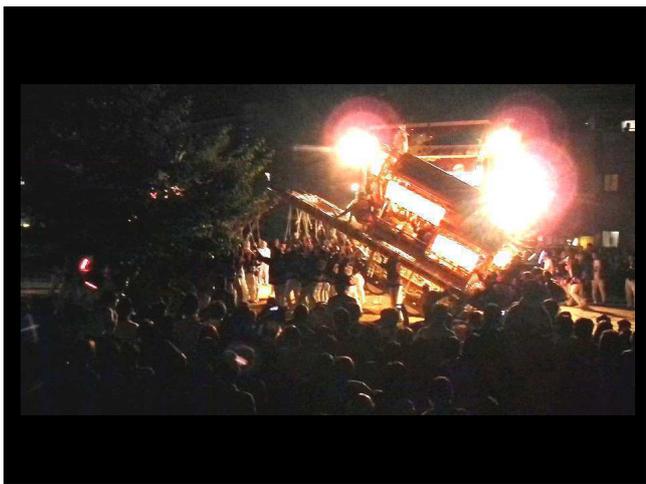


熱気が入りすぎて、いざこざも
世話役たち・審判員 そして 警察官たちが、すぐに中央に割って入る
ルール緩和の中でこの山あわせが行われていることが、よくわかる



手締めで締めて また 山あわせが再開













9時を回って 興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了



「山あわせ」が終わって みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ 築地の街中へ繰り出して行って 祭りのフィナーレを楽しむ



築地 だんじり祭 フィナーレ 築地本通りで
だんじり 囃子が街に鳴り響き、繰り出した人たちと だんじりが一体になって
祭の余韻を楽しむ





築地初島大神宮 だんじり祭 2013年9月16日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しつつの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり 囃子のリズムが耳に残っています



築地初島大神宮 だんじり祭 2013年9月16日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり 囃子のリズムが耳についています



【参考 和鉄の道 Country walk】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
50数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf>
2. 工都尼崎を支える「尼崎港 開門(尼崎)ロック」walk
<http://www.infokkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf>